

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月14日

【四半期会計期間】 第54期第3四半期(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)

【会社名】 ユニ・チャーム株式会社

【英訳名】 UNICHARM CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役 社長執行役員 高原 豪久

【本店の所在の場所】 愛媛県四国中央市金生町下分182番地  
(上記は登記上の本店所在地であり実際の本社業務は  
下記の場所で行っております。)  
東京都港区三田三丁目5番27号  
住友不動産三田ツインビル西館

【電話番号】 03(3451)5111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理財務本部長 浅田 茂

【最寄りの連絡場所】 東京都港区三田三丁目5番27号  
住友不動産三田ツインビル西館

【電話番号】 03(3451)5111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理財務本部長 浅田 茂

【縦覧に供する場所】 ユニ・チャーム株式会社本社事務所  
(東京都港区三田三丁目5番27号  
住友不動産三田ツインビル西館)  
ユニ・チャーム株式会社近畿支店  
(大阪府大阪市北区中之島三丁目2番18号  
住友中之島ビル)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第3四半期 連結累計期間	第54期 第3四半期 連結累計期間	第53期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	364,482	438,978	495,771
経常利益 (百万円)	45,824	50,730	65,012
四半期(当期)純利益 (百万円)	29,859	29,350	43,121
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	38,601	50,631	71,982
純資産額 (百万円)	275,591	421,757	329,201
総資産額 (百万円)	510,459	599,413	535,055
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	162.06	148.61	233.75
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	148.79	144.68	209.56
自己資本比率 (%)	47.1	62.8	54.2

回次	第53期 第3四半期 連結会計期間	第54期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	75.26	59.23

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について、重要な変更はありません。

また、重要な事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は、行われていません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）の海外において、一部の新興国での通貨安の進行により原材料価格が高騰し、収益への影響がりましたが、積極的に進出都市数を拡大した結果、パーソナルケア関連商品の販売は引き続き順調に推移しました。また、日本国内において、円安による原材料価格への影響がりましたが、継続的な価値提案の実施により、高付加価値パーソナルケア関連商品の販売が堅調に推移し、収益性を維持しました。

このような経営環境の中、当社グループは、“世界中の全ての人々のために、快適と感動と喜びを与えるような、世界初・世界No.1の商品とサービスを提供し続けます”の基本方針に基づき、独自の不織布技術と消費者ニーズを捉えた商品の開発に努め、市場の活性化に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高438,978百万円（前年同期比20.4%増）、営業利益49,195百万円（前年同期比8.1%増）、経常利益50,730百万円（前年同期比10.7%増）、四半期純利益29,350百万円（前年同期比1.7%減）となりました。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

#### パーソナルケア

##### ベビーケア関連商品

海外では、インドネシア、タイ、ベトナムといった新興国市場において、地域の特性にあった機能を搭載した商品を積極的に販売した結果、引き続き高い成長を維持することができました。新興国市場の中でも普及率が低いインドにおいて、低価格商品の販売活動を積極的に行った結果、シェアを拡大することができました。

国内では、独自の不織布技術を活かした赤ちゃんの肌をしめつけずにモレを防ぐ『ムーニー エアフィット』と、ふんわりびたりですきまモレ安心の『ムーニーマン エアフィット』、ディズニーキャラクターのかわいいデザインと、たっぷり吸収の『マミーポコ』シリーズの販売促進を積極的に行い、ブランド力の強化を図ってまいりました。

#### フェミニンケア関連商品

海外では、重要市場である中国の若年層から、デザインのかわいらしさと商品の品質の高さに対して高いご支持を頂き、業績が安定的に推移しました。

国内では、市場が縮小傾向の中、生理中の敏感肌にやさしい『ソフィ はだおmoi』シリーズに業界初の「ドロットと経血もサラッと吸収」するシートを採用し、肌へのやさしさを更に追及した商品にリニューアルしたほか、9月に新発売した『ソフィ 超熟睡 極上フィットスリム』の販売促進にも取り組み、多様化する女性のライフスタイルに応じた新価値提案と独自の不織布技術を活かした高付加価値商品の浸透に努めてまいりました。

#### ヘルスケア関連商品

高齢化の進展で成長が続くヘルスケア国内市場において、ナプキンタイプの尿ケア専用品『ライフリー さわやかパッド』と『ライフリー その瞬間も安心』の高吸収ラインに、更に尿モレ量を低減する構造を採用したほか、パンツタイプの介護用品『ライフリー うす型あんしんパンツ』の吸収体改良と、新たにSサイズ・LLサイズのラインアップ追加にあわせて、商品名を『ライフリー 長時間あんしんうす型パンツ』に変更し、成人用排泄ケア市場をリードしてまいりました。また、テレビコマーシャル、WEBサイト、店頭でのカウンセリングや日常生活動作に合わせた売り場づくりを通じて、ライナータイプの『チャームナップ』シリーズと共に販売促進にも積極的に取り組んだ結果、市場シェアが拡大し、引き続き業績が拡大しました。

#### クリーン&フレッシュ関連商品

住環境やライフスタイルの変化に伴い、家庭内や日用品でも香りを楽しみながら限られた時間の中で家中を簡単にお掃除したいというお客様が増えている中、「家中まるごとこれ一本」のお掃除用ハンディワイパー『ウェーブ』より、清潔感のある香りの『ウェーブ 共通取替えシート フローラル&ベルガモットの香り』を「グリーンの香り」に続き限定発売し、市場の活性化を図ってまいりました。

この結果、パーソナルケアの売上高は375,119百万円（前年同期比23.3%増）、セグメント利益（営業利益）は47,707百万円（前年同期比15.8%増）となりました。

#### ペットケア

消費者ニーズを捉えた商品の開発と市場創造に努め、商品のセグメンテーションを通じて市場の活性化と販売促進に取り組んでまいりました。

国内ペットフードでは、猫フード市場において、猫の嗜好性に応じた商品開発に積極的に取り組み、新しいクランチタイプの猫用おやつ『銀のスプーン ハッピークランチ』シリーズや、食べ易さとおいしさを実現した『銀のスプーン ミツ星ジュレ パウチ』シリーズを発売したほか、犬フード市場において、成長する犬種別フード、低脂肪フードを拡充し、市場の活性化に取り組んでまいりました。

ペットトイレタリーでは、独自の不織布技術を活かし、ペットオーナー様のニーズに応えた商品の販売促進に取り組んだ結果、業績が安定的に推移しました。

北米市場において、ユニ・チャーム独自の技術を使用した犬用シートの取扱いが大手小売店で拡大し、新たに発売した猫砂商品の取扱いも8月から開始しました。

この結果、ペットケアの売上高は59,713百万円（前年同期比6.2%増）、セグメント利益（営業利益）は1,180百万円（前年同期比70.6%減）となりました。

#### その他

不織布・吸収体の技術を活かした業務用商品分野において、産業用資材を中心に販売を進めてまいりました。

この結果、その他の売上高は4,146百万円（前年同期比0.2%減）、セグメント利益（営業利益）は285百万円（前年同期比0.1%減）となりました。

### (2) 財政状態の分析

#### （資産）

当第3四半期連結会計期間における総資産は599,413百万円（前連結会計年度比12.0%増）となりました。主な増加は、現金及び預金17,198百万円、機械装置及び運搬具（純額）14,081百万円、未収入金の増加等によるその他流動資産12,476百万円、建物及び構築物（純額）10,765百万円によるものです。

#### （負債）

当第3四半期連結会計期間における負債は177,656百万円（前連結会計年度比13.7%減）となりました。主な増加は、支払手形及び買掛金18,643百万円、前受収益の増加等によるその他流動負債6,566百万円であり、主な減少は、転換社債型新株予約権付社債 53,333百万円によるものです。

#### （純資産）

当第3四半期連結会計期間における純資産は421,757百万円（前連結会計年度比28.1%増）となりました。主な増加は、自己株式の減少33,819百万円、当第3四半期純利益29,350百万円、資本剰余金16,587百万円、為替換算調整勘定10,279百万円によるものです。

#### （自己資本比率）

当第3四半期連結会計期間における自己資本比率は62.8%となりました。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、3,760百万円であり、主な成果は以下のとおりであります。

#### パーソナルケア

ベビーケア関連製品では、新技術「ふんわりぴたりギャザー」を採用した、細めでも太めでもいっぱい動いてもふわっとぴったりフィットし、すきまモレ安心の『ムーニーマン エアフィット（はいはいM/ビッグより大きい）』、たっぷり吸収でモレずに安心、かわいい紙オムツの『マミーポコパンツ（M/L）』、朝まで安心の高い吸収力を持つおねしょ用パンツ型紙オムツ『オヤスミマン（ビッグサイズ以上）』、をそれぞれ改良発売し、品質機能面での改良によるお客様満足度の向上を図ると共に、ベビー用紙オムツ市場の活性化に努めてまいりました。

海外においては、タイ及び中国の開発拠点を中心に現地スタッフが周辺国を含め商品ニーズを適確に捉え主にアジア向けを中心に商品開発を行っております。中国では『88宝88 小内88(Mamy Poko Pants) (M)』、インドでは『Mamy Poko Pants Standard (S/M/L/XL)』を改良発売し、ベビー用紙オムツ市場の活性化と共にブランド力の強化に努めてまいりました。また韓国では、『Mamy Poko Supremier (S/M/L/XL)』、『Mamy Poko Pants (size 6)』、インドネシアでは、『Mamy Poko Junior Night Pants (XXL)』、ベトナムでは、『Bobby Pants (S)』を新発売し、ラインアップ拡大によるお客様満足度の向上を図ってまいりました。

フェミニンケア関連製品では、中国における生理用ナプキンカテゴリーにおいて、生理中の夜でも安心して熟睡できるナプキンとして高いご支持を頂いている『82菲 超熟睡』ブランドから『82菲 超熟睡 安心84』を新発売し、ラインアップの強化を図ると共に、お客様満足度の向上を図ってまいりました。またミャンマーでは『Sofy Eva Day Slim (non-wing cotton type 22cm)』、『Sofy Eva Day Slim (wing cotton type 22cm)』、『Sofy Eva Day Slim (wing dry type 25cm)』、『Sofy Eva Day Slim (wing cotton type 25cm)』、『Sofy Eva Day Maxi (wing dry type 25cm)』を改良発売し、ブランド力の強化に貢献するとともに生理用ナプキン市場の活性化に努めてまいりました。

また、韓国におけるライナーカテゴリーにおいては、『Sofy 瞬吸愛 155mm/175mm』を、中国では『82菲 口袋魔法 美86心情8287 零味感 / 芳香感155mm』を新発売し、韓国及び中国市場におけるライナー市場の活性化と商品力の強化に努めてまいりました。

ヘルスケア関連製品では、パンツタイプカテゴリーにおいて、おしっこをしっかりと吸収し、長時間モレずに安心な下着のように快適なはき心地の薄型パンツ型紙オムツ『ライフリー 長時間あんしんうす型パンツ (S/M/L/LL)』を新発売し、ラインアップの強化を図ってまいりました。また軽失禁カテゴリーにおいては、軽い尿もれ専用品としてお客様に高いご支持を頂いている『ライフリー さわやかパッド/その瞬間も安心』シリーズから『ライフリー さわやかパッド特に多い時も1枚で安心220cc』、『ライフリー さわやかパッド 特に多い時も長時間安心270cc』、『ライフリー その瞬間も安心300cc』をそれぞれ改良発売し、吸収力UPによる品質機能の向上とブランド力の強化に努めてまいりました。

マスクカテゴリーにおいては、高い遮断性と快適なつけ心地でお客様から高い支持をいただいている『超快適マスク』より、アロマの香りで気持ちが癒される、香り付マスク『超快適マスク アロマ ハッピーローズ/クリアグレープフルーツミント/くつろぎラベンダー』を新発売し、お客様のニーズに対応した快適性の向上とブランド力の強化を図ってまいりました。

クリーン&フレッシュ関連製品では、パーソナルウェットカテゴリーにおいて、オーストラリアで『Baby love wipes 80p/80×3』を新発売し、ウェットティッシュ市場の活性化に貢献してまいりました。

シートクリーナーカテゴリーにおいては、家中まるごと1本でホコリをふき取れるとご好評頂いているお掃除用『ウェーブ ハンディーワイパー』から、お掃除をしながら、香りも楽しんで頂けるように『ウェーブ 共通取り替えシート フローラル&ベルガモットの香り』を新発売し、ラインアップの拡充を図ってまいりました。

なお、パーソナルケアにおいては、製品の有用性を証明する目的で、ITEA東京環境アレルギー研究所、暮らしの科学研究所、東北文化学園大学大学院、麻布大学獣医学部の協力のもと、『マスク着用

によるダニアレルゲン吸入予防効果の検討』を実施し、この研究成果を「第63回日本アレルギー学会  
秋季学術大会」にて発表、品質機能のエビデンス構築に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のパーソナルケアにおける研究開発費は、3,223百万円と  
なりました。

#### ペットケア

当第3四半期連結累計期間のペットケアにおける研究開発費の金額は、536百万円となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間において、ペットケアにおける研究開発活動の状況に重要な変更  
はありません。

#### その他

当3四半期連結累計期間のその他における研究開発費の金額は、0百万円となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間において、その他における研究開発活動の状況に重要な変更はあ  
りません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	827,779,092
計	827,779,092

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	206,944,773	206,944,773	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 あります。
計	206,944,773	206,944,773		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日		206,944,773		15,992		18,590



(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式（自己株式等）			
議決権制限株式（その他）			
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 6,141,500		
完全議決権株式（その他）	普通株式 200,735,000	2,007,350	
単元未満株式	普通株式 68,273		
発行済株式総数	206,944,773		
総株主の議決権		2,007,350	

（注）「単元未満株式」の欄の普通株式数には、当社所有の自己株式23株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
（自己保有株式） ユニ・チャーム（株）	愛媛県四国中央市金 生町下分182番地	6,141,500		6,141,500	2.97
計		6,141,500		6,141,500	2.97

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	74,321	91,519
受取手形及び売掛金	<sup>1</sup> 60,349	<sup>1</sup> 67,207
有価証券	11,212	3,013
商品及び製品	26,254	25,460
原材料及び貯蔵品	17,669	22,072
仕掛品	861	1,153
その他	20,145	32,621
貸倒引当金	85	90
流動資産合計	210,728	242,957
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	44,695	55,461
機械装置及び運搬具(純額)	79,177	93,258
その他(純額)	39,256	47,380
有形固定資産合計	163,129	196,100
無形固定資産		
のれん	76,686	77,989
その他	20,707	22,189
無形固定資産合計	97,394	100,179
投資その他の資産		
前払年金費用	5,615	5,854
投資有価証券	19,664	25,075
繰延税金資産	36,616	27,318
その他	2,070	2,033
貸倒引当金	164	106
投資その他の資産合計	63,803	60,176
固定資産合計	324,326	356,456
資産合計	535,055	599,413

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	<sup>1</sup> 53,185	<sup>1</sup> 71,829
短期借入金	6,228	7,293
未払法人税等	3,234	3,728
賞与引当金	4,335	2,950
その他	54,562	61,129
流動負債合計	121,547	146,931
<b>固定負債</b>		
転換社債型新株予約権付社債	53,333	-
長期借入金	23,000	22,000
退職給付引当金	2,925	3,313
その他	5,048	5,411
固定負債合計	84,306	30,725
負債合計	205,854	177,656
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	15,992	15,992
資本剰余金	29,782	46,369
利益剰余金	275,609	298,109
自己株式	43,030	9,210
株主資本合計	278,354	351,261
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	7,635	11,138
繰延ヘッジ損益	20	90
土地再評価差額金	157	157
為替換算調整勘定	3,955	14,235
その他の包括利益累計額合計	11,413	25,124
新株予約権	677	311
少数株主持分	38,755	45,059
純資産合計	329,201	421,757
負債純資産合計	535,055	599,413

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
 【四半期連結損益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	364,482	438,978
売上原価	196,403	242,077
売上総利益	168,079	196,901
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 122,559	<sup>1</sup> 147,705
営業利益	45,519	49,195
営業外収益		
受取利息	635	1,045
受取配当金	257	306
為替差益	2,330	2,949
その他	491	739
営業外収益合計	3,714	5,041
営業外費用		
支払利息	249	221
売上割引	3,035	2,150
デリバティブ評価損	5	905
その他	118	228
営業外費用合計	3,409	3,506
経常利益	45,824	50,730
特別利益		
固定資産売却益	28	40
その他	5	0
特別利益合計	33	41
特別損失		
固定資産処分損	419	626
事業構造改善費用	<sup>2</sup> 81	-
退職給付制度改定損	-	122
その他	16	28
特別損失合計	517	776
税金等調整前四半期純利益	45,340	49,995
法人税、住民税及び事業税	7,024	9,137
法人税等調整額	4,462	7,256
法人税等合計	11,486	16,394
少数株主損益調整前四半期純利益	33,854	33,601
少数株主利益	3,994	4,250
四半期純利益	29,859	29,350

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	33,854	33,601
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,180	3,502
繰延ヘッジ損益	4	136
為替換算調整勘定	3,562	13,664
その他の包括利益合計	4,747	17,030
四半期包括利益	38,601	50,631
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33,569	43,062
少数株主に係る四半期包括利益	5,032	7,568

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高から除かれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	156百万円	655百万円
支払手形	380百万円	365百万円

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
販売運賃諸掛	17,873百万円	21,934百万円
販売促進費	50,733百万円	64,664百万円
広告宣伝費	11,868百万円	13,162百万円
従業員給与・賞与	12,454百万円	14,418百万円
賞与引当金繰入額	844百万円	876百万円
退職給付費用	1,146百万円	1,064百万円
減価償却費	1,523百万円	1,793百万円

- 2 事業構造改善費用

前第3四半期連結累計期間の事業構造改善費用は、パーソナルケアセグメントに係る事業再編関連費用であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	11,840百万円	16,009百万円
のれんの償却額	3,146百万円	3,468百万円

## (株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月31日 取締役会	普通株式	2,947	16	平成24年3月31日	平成24年6月6日	利益剰余金
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	3,132	17	平成24年9月30日	平成24年12月3日	利益剰余金

## 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月31日 取締役会	普通株式	3,237	17	平成25年3月31日	平成25年6月6日	利益剰余金
平成25年10月31日 取締役会	普通株式	3,614	18	平成25年9月30日	平成25年12月2日	利益剰余金

## 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3 株主資本の著しい変動

当第3四半期連結累計期間において、転換社債型新株予約権付社債の権利行使に伴い、自己株式を処分しております。

この結果、自己株式が31,966百万円減少、資本剰余金が15,734百万円増加しております。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				セグメント間 取引消去 又は全社	四半期連結 損益計算書 計上額
	パーソナルケア	ペットケア	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	304,111	56,218	4,152	364,482		364,482
セグメント間の内部売上高 又は振替高			13	13	13	
計	304,111	56,218	4,166	364,496	13	364,482
セグメント利益(営業利益)	41,195	4,017	286	45,499	20	45,519

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				セグメント間 取引消去 又は全社	四半期連結 損益計算書 計上額
	パーソナルケア	ペットケア	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	375,119	59,713	4,146	438,978		438,978
セグメント間の内部売上高 又は振替高			24	24	24	
計	375,119	59,713	4,170	439,003	24	438,978
セグメント利益(営業利益)	47,707	1,180	285	49,174	21	49,195

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	162円06銭	148円61銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	29,859	29,350
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	29,859	29,350
普通株式の期中平均株式数(千株)	184,248	197,497
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	148円79銭	144円68銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	26	1
(うち、社債利息)	( 26)	( 1)
普通株式増加数(千株)	16,259	5,355
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

自己株式の取得

当社は、平成26年1月31日開催の取締役会において、会社法第459条第1項第1号の規定による定款の定めに基づき、下記のとおり自己株式の取得を行うことを決議いたしました。

・自己株式の取得を行う理由

株主への一層の利益還元と企業環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため。

・取得の内容

取得する株式の種類	当社普通株式
取得する株式の総数	240万株(上限) (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合1.18%)
株式の取得価額の総額	120億円(上限)
取得する期間	平成26年2月3日から平成26年3月24日まで

## 2 【その他】

第54期（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の中間配当については、平成25年10月31日開催の取締役会において、平成25年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	3,614百万円
1株当たりの金額	18円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成25年12月2日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月12日

ユニ・チャーム株式会社  
取締役会 御中

### あらた監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	山	本	昌	弘	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	齊	藤	剛	印	
指定社員 業務執行社員	公認会計士	椎	野	泰	輔	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているユニ・チャーム株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ユニ・チャーム株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。